

米を通して人・自然・夢が交わり幸せを追求する。
数字や金額には表せない喜びを求めて、「米の米ニケーション！」

ライスボードのポジニフブ米ニケーション

(株)ライスボード新潟総務部長・米ニケーター 豊永 有

「日本の野球には夢がない」という野茂英雄投手の名セリフがアメリカ人のハートの琴線に触れたと、今回わたしたちをポラントニアで支えてくれた野田さんが教えてくれた。

わたしたちに置き換えればさしずめ「日本の稲作には夢がない」だろう。産地間競争の激化と生産者価格の低迷、国際競争、働き手の高齢化と後継者不足、将来展望が開けない農政、どこをどう見ても夢のかけらもない「真っ黒けのけ」だ。

だけどころと待て。よくよく新食糧法を眺めてみればかすかな希望が垣間見える。自由の種子が播かれているのだ。しかし、この

種子の栽培方法は育てる人の頭を耕さなければ根を張らない。嘆いてばかりいないで時代が与えてくれた自由を満喫して酸化皮膜を破ろう。

滞る水は腐ってしまう

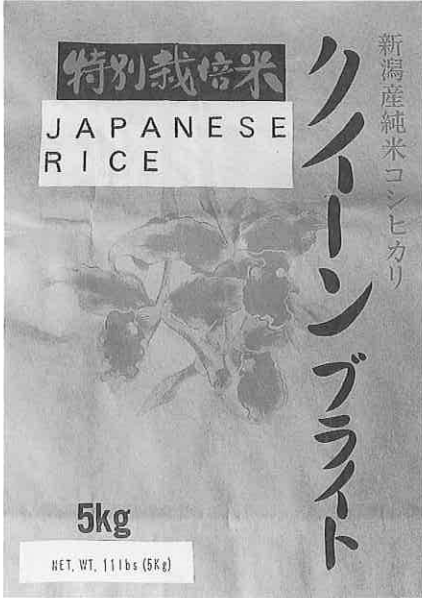
内陸に向かう川は死んでしまうという。その代表例が死海だろう。日本の稲作はまさに内向きのみで生きてきたおかげで宿便が詰まって噴死寸前だ。その意味で外国産米輸入と国際競争は川の流れを変えるよいチャンスといえなくもない。

か、もしくは、海外駐在員向けの社内支援物資に加えてもらいたいと考えた。先方の商社は法律改正後の国内での活動、とりわけ新潟米の集荷をリンクさせ、非常に興味を示した。しかし、結果的には話は暗礁に乗り上げてしまった。春の時点では政令・省令の詳細がわからず動きがとれなかった。巨大商社が動くといんパクトが強すぎアメリカ政府と役所から反発が予想されたからだ。それならばと、独立系の小さな商社を軒なみ当たってみた。しかし色よい返事はもらえず年を越してしまった。

新潟県の挑戦

新潟県が来年度予算に将来の輸出を想定して調査予算を計上し、秋にロンドンで見本市

新潟県産コシヒカリ、国際市場に参入



アメリカ市場向けコシヒカリのパッケージ

政府の「一粒たりとも米は入れない」という言葉を信用していなかったからライスボードが誕生した。が、あまりにもお粗末な農政に「政府なんか頼らずに生きるのだ」と全国の稲作農家にメッセージを送らずにはいられなかった。だから、新食糧法が施行された昨年の11月1日に照準を合わせ、米の生産国へ輸出して「日本稲作元氣だぜ！」を示そうと春から行動していた。まず超巨大商社の穀物部にアタックした。商社の流通組織を利用できない



「コサカフーズワールド」の小坂社長。「フレッシュベジ」店内にて

おむすびで試食/もちつきPR/日本人'おいしい'/アメリカ人'高過ぎる'

カリフォルニア ガーディナ市

食へませコシヒカリ

2日間で180キロ販売




「コシヒカリ」の海外輸出が盛況で、現地では「おいしい」と好評です。アメリカ人は「高過ぎる」と感じ、日本人は「おいしい」と感じています。

ニッポン・コメ農家の反撃

新潟コシ 仏・豪へ輸出

自慢の品質で勝負

「コシヒカリ」の海外輸出が盛況で、現地では「おいしい」と好評です。アメリカ人は「高過ぎる」と感じ、日本人は「おいしい」と感じています。

新潟県産コシヒカリの海外進出を報じる8月11日付読売新聞全国版(右)と9月8日付同紙新潟県版(左)

販売ベースの輸出は快調に進んでいった。しかし、イベント的、つまりアメリカへの輸出の話はいつこうに進まない。最大の原因は価格差だった。「いくら新潟の品質のよい米でもアメ

品揃えの少ない八百屋

信のイベント的な輸出だ。商売ベースでの輸出と稲作農家のメッセージ発信のイベント的な輸出だ。馬鹿げた話は普通でない人が一番話しやすい。小坂社長に輸出の相談にいくと「おもしろい。アメリカでやりましょう」と二つ返事。あまりにあっさりしているのでこちらが拍子抜けしてしまふほどだ。

輸出にあたり、小坂社長に二つだけお願いした。一つは日本国内と同じ価格以上にし、ダンピング販売はしない。二つ目は、地元の人を利用する店でわたしたちがイベント販売に挑戦する。この超無謀なお願いは輸出を太行する条件として(ライスボードの) 笹木社長からわたしに付されていた。

メジャーは無理でも2Aに挑戦

輸出自体が無謀なのに高いハードルを自ら課すことにわたし自身は不満であったが仕方ない。小坂社長に嫌味の一つでも言われるかと内心ビクビクお願いしたが「それでいきましょう」とまたまたあっさりと言われてしまった。小坂社長は最初ロサンゼルスの子日本百貨店を考えていたが、急遽、日系スーパーに変更してもらった。この日系スーパーの顧客は日系3世4世が中心だ。欧米系アメリカ人をメジャーリーグとすればこのスーパーはさしずめ2Aだろう。1Aの日本百貨店の在留邦人客よりも販売は数段難しくなるが輸出の意味は深まる。この選択が自分たちの首を締めないことを折りつつ話はトントン拍子に進んでいく予定だったのだが……(この項次号へ続く)



とよなが・ゆう/1964年2月東京都生まれ。東京農業大学卒。井関農機(株)に勤務後、94年4月、東京から新潟県見附市に移住。現在、新潟県の稲作経営者が集まって設立した(株)ライスボード新潟(新潟県長岡市協川新田町字前島970-100)0258-66-0070)の総務部長として商品企画・販売を担当。

(33) 新潟経済

新潟のコメ 世界へ

県、11月に英国で展示会

生産者、欧米で売り込み

風速計

県内の製粉技術、援助に一役

8月22日付日本経済新聞(新潟県版)